

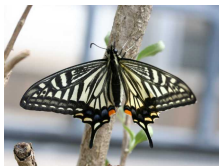
さいきんみ むし
最近見つけたの虫たち!

3年2組で5月25日に羽化したアゲハ

アゲハ (アゲハチョウ科)

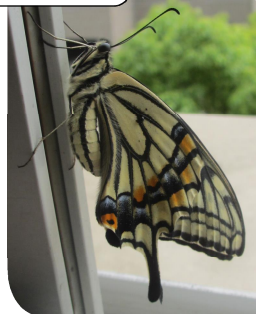
4れい幼虫

5れい幼虫



さなぎ

学校(がっこう)でもよく見かけるアゲハは、日本中(にほんじゅう)で見られる大きなチョウです。4月ごろからとびはじめ、ミカンやカラタチなどにたまごをうみます。1年に5・6回(かい)卵(たまご)から成虫(せいちゅう)をくりかえし、さなぎで冬(ふゆ)をこします。春(はる)にでるアゲハはすこし小さく、夏(なつ)のアゲハは、大きくもようもすこしちがうそうです。卵(たまご)は4~5日で、ふかして幼虫(ようちゅう)がでてきて、上の4れい幼虫(ようちゅう)までは、鳥(とり)のふんをま



ねています。5れいからは、みごとなみどりいろにへんしんします。そのあと、さなぎになって10日ほどすると2時間(じかん)ぐらいかけて、さなぎからチョウがでてきます。すごいことに、3年2組で26日のべんきょうちゅうにできました。じつはほとんどのチョウは鳥(とり)などに見つからないためか、朝(あさ)の学校が始まるまでに羽化(うか)するのでほんとうにめずらしいんだよ。幼虫は、葉(は)っぱをたべますが、チョウになると花のミツをすいます。

モンシロチョウ (シロチョウ科)

3年2組で5月26日に羽化したモンシロチョウ



幼虫

日本中(にほんじゅう)で見られ、学校(がっこう)でもいちばんよく見るチョウです。春(はる)から秋(あき)までヒラヒラととんで、いろいろな花(はな)で蜜(みつ)をすいます。青虫(あおむし)とよばれる幼虫(ようちゅう)がたべるキャベツ畑(ばたけ)やアブラナ畑(あぶらな)にたくさんいるので、葉(は)っぱをさがせば、大きさ1mmの卵(たまご)やようちゅうも見つかります。



成虫

羽(はね)は白色(しろいろ)で、いくつかの黒紋(くろもん)があり、オスの羽(はね)はメスにくらべてやや色(いろ)がくらい。この色(いろ)のちがいでオス・メスをおたがい見わけているらしいです。羽(はね)をひろげると45~65mm。春(はる)の成虫(せいちゅう)は夏(なつ)の成虫(せいちゅう)よりも白(しろ)っぽいのだそうです。日本のモンシロチョウは3月ごろから10月ごろまで、長(なが)いあいだにわたって見られ、明石(あかし)のようなあたたかい地域(ちいき)は1年に4・5回ほどチョウになります。なんともっとあたたかい地域(ちいき)では、7回もあるそうです。冬(ふゆ)は蛹(さなぎ)で越冬(えっとう)しますが、たまに葉(は)のかげでじっとしている幼虫(ようちゅう)もいるそうです。



卵



ヒメウラナミジャノメ (ジャノメチョウ科)



波形

見た目は蛾(が)のようですが、チョウの仲間(なかま)です。明石(あかし)でもよく見かけ、草(くさ)の上をフワ(成虫)フワととび、目玉模様(めだまもよう)のあるうす茶色(ちゃいろ)のチョウです。羽(はね)のうらにはこまかい波形(なみがた)のもようがあります。うらの目玉模様(めだまもよう)は、左右(さゆう)5つずつ。モンシロチョウよりすこし小さく、いろいろな花(はな)でよく蜜(みつ)をすいます。幼虫(ようちゆう)は、カヤツリグサ科(か)やチジミザサ、ススキなどのイネ科植物(かしよくぶつ)をたべます。春(はる)から秋(あき)まで見られ、名前(なまえ)はヘビの目玉(めだま)ににた丸(まる)い紋(もん 蛇(じゃ)の目)があるからついたジャノメチョウの仲間(なかま)です。小さくあいらしいのでヒメ(姫)、うらが波(なみ)のようになっているのでウラナミ(裏波)がついています。 名前(なまえ)のつけかたって、けっこうたんじゅんだね。

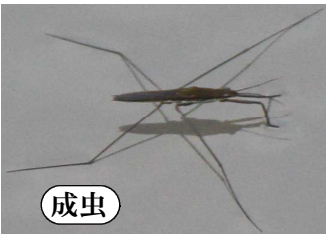


成虫



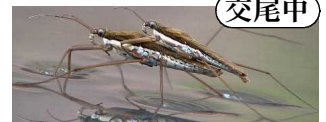
幼虫

アメンボ (アメンボ亜科)



成虫

春(はる)になると池(いけ)や川、水をはった田んぼでよく見かけ、秋(あき)ごろまでスイスイと水の上をすべっています。水辺(みずべ)にでてきてすこしたつと交尾(こうび)をします。上(うへ)にのっているのがオスで下(した)がメスです。水の中にたわらがたの1mmほどの卵(たまご)をうみ、7日もすると幼虫(ようちゆう)が「ふ化(か)」し、虫(むし)を食(た)べるようになり、15mmほどの大きさの成虫(せいちゆう)にそだちます。



交尾中

アメンボがしずまずに水の上を歩(ある)けるのは、すごく体(からだ)がかかるのと、あしの先(さき)には毛(け)がはえていて油(あぶら)がついているため、水がしみこまないで水にぬれないからです。たとえば、1円玉(えんだま)を、コップの水面(すいめん)にしずかにおくと水の上(うへ)にうかんだまましみません。おなじように、アメンボもかるくて水をはじく体(からだ)をもっているからういていられるのです。 アメンボの足をせんざいであらうとしずんでおぼれてしまうんだって(@_@)

オオアオイトトンボ (アオイトトンボ亜科) アップにするとこんな顔



成虫

六甲山(ろっこうさん)で見かけた大きさ4~5cmほど、ピカピカの緑色(みどりいろ)をした小さくてかわいいイトトンボです。5~12月(ごらふ)ごろまで見られ、日本中(にほんじゅう)にいます。水面(すいめん)におおいかぶさった木の樹皮(じゅひ)に卵(たまご)をうむので、



木かげのある池(いけ)でよくとんでいます。春(はる)にうかし、幼虫(ようちゆう)で3ヶ月(さんげつ)すると成虫(せいちゆう)になり、小さなガやハエ、ユスリカなどのちいさなとぶこん虫(こんちゆう)をたべます。ときには、小(こ)がたのイトトンボもたべるそうです。さいきんは、かんきょう(かんきょう)の変化(へんか)により、激減(げきげん)しているといわれています。さびしいね。 とにかく見とれるぐらいきれいな色(いろ)ですよ(^0^)